

第 20 回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 報告書

令和 7 年 9 月 22 日

進政会 長友潤治

開催日：令和 7 年 8 月 27 日～28 日

開催場所：札幌市（札幌コンベンションセンター）

参加者：正副議長を含む市議会議員など、約 2,452 名

テーマ：「地方議会議員のなり手不足問題」

概要

本フォーラムでは、地方議会議員の「なり手不足問題」をテーマに、特に小規模市や町村における深刻な状況が議論された。都城市議会のように比較的大規模な自治体では成り手不足の問題は顕在化していないが、小規模市や町村では財政的・制度的制約が大きく、議員の確保が困難な状況にある。議員報酬や制度設計、情報発信、教育・主権者教育、多様性確保など、多岐にわたる視点から議論が展開された。

主な発言・議論内容

基調講演

講演者：伊吹文明（元衆議院議長）

- ・ 主題：「主権を預かる誇りと責任」
- ・ 議員は市民の主権を代行する立場であり、その責任と倫理、説明責任が重い。
- ・ 議員と行政（市長など）の関係において、「予算を安易に通す」「調整だけで済ませる」態度を取るべきではない。
- ・ 議員生活終了後のセーフティーネット（老後の生活保障）の不十分さが、良い人材を議員に引きつけにくくしている。
- ・ 特に小規模市や町村では財政的制約が大きく、報酬や待遇面での改善が難しいため、成り手不足が深刻であると指摘。

パネルディスカッション

登壇者：牧原 出（東京大学教授）、白石 洋一（読売新聞）、山下 節子（宇部市議会議員）、長内 直也（札幌市議会議員）

- **議員報酬制度の見直し**：特に小規模市や町村では報酬が低く、手当・福利厚生などを含めた待遇改善が困難。自治体規模に応じた柔軟な制度設計が必要。
- **情報発信の強化**：住民に議員活動の現実を知らせる取り組みが弱い。何を議員がしているかを分かりやすく示す必要がある。
- **多様性の確保**：若者や女性が議員になりやすい環境づくり。夜間開催や育児・仕事との両立を考慮した制度設計が必要。特に小規模自治体では時間的・環境的制約が大きい。
- **専門化・非常勤化のバランス**：自治体規模や財政力による違いがあるため、地域事情に応じた制度設計が望ましい。

事例報告

発表者：今井 康善（長野県岡谷市議会前議長）、平神 純子（鹿児島県南さつま市議会議員）、中野 進（石川県白山市議会議員）

- **岡谷市**：「定数割れ」を乗り越えるため、議会情報のオープン化、住民参加の促進、議会機能の強化を図り、成果を上げている。
- **南さつま市**：「女性議員を 100 人にする会」を設立し、女性の参画を増やす運動を地域レベルで実践。障壁はあるが、継続的な取り組みの意義を強調。
- **白山市**：「未来へつなぐ議員の在り方検証委員会」を設置し、議員定数、報酬、政務活動費などを住民との対話を交えて検討。

参加者の感想・共感ポイント

- **責任と待遇のギャップ**：「責任は重いが報酬・待遇がそれに伴っていない」という声が多数。特に小規模自治体では財政的制約が大きく、報酬改善が難しい。
- **議員活動の魅力の認知不足**：住民から見て議会が遠く感じられる、議員活動が見えにくいという課題。情報発信の改善が必要。
- **主権者教育の重要性**：若年層に議会制度を理解してもらい、議員という選択肢

を身近に感じてもらう工夫が求められる。

- **制度的制約**：特に小規模自治体では、財政的な制約が大きく、報酬改善が難しいというジレンマ。

課題・難点

1. **財政・制度の制約**：小規模市や町村ほど議会予算（報酬・手当・福利厚生）を増やす余裕がない。
2. **認知・理解の不足**：議員の役割・負担・責任を住民が十分理解していない。
3. **多様性の確保**：若者・女性・育児中の人などが立候補しやすい環境が整っていない。
4. **待遇面の課題**：報酬が少なく、活動負担が大きい割に見返りが少ない。

対策・提言

1. **議員報酬・福利厚生の改善**：自治体規模に応じた制度設計を検討。専門化・非常勤化のバランスを取る。特に小規模自治体では財政的支援が必要。
2. **情報発信の強化**：広報誌、議場見学、チラシ、Web 発信などで議員活動を住民に分かりやすく伝える。
3. **主権者教育の推進**：学校との連携や体験型学習を通じて若年層に議会制度を教える。
4. **多様な参加者の支援**：女性・若者・育児中の人が無理なく活動できるような制度整備を行う。
5. **住民参加の促進**：議会情報の開示や住民対話を増やし、信頼を築くことでなり手を増やす。

本市への反映

都城市議会においては、現状、成り手不足が深刻な状態ではないものの、全国的な課題として小規模市や町村での成り手不足問題に学び、以下の取り組みを進める必要がある：

1. **情報発信の強化**：都城市議会の活動を住民により分かりやすく伝え、議会と市

民の距離を縮める。

2. **主権者教育の充実**：市内の若年層に議会制度や議員の役割を理解してもらうため、学校との連携や体験型学習を実施する。
3. **多様性の確保**：女性や若者が議員になりやすい環境づくりを進め、議会の多様性を向上させる。
4. **小規模市や町村への支援**：近隣の小規模自治体が抱える成り手不足問題に対する支援を検討し、広域的な連携を強化する。
5. **SNS 活用と規制に関する慎重な検討**：最近の SNS の普及によって、これまで政治に無関心だった若者や市民が政治に関心を持ち始めている。これは大いに歓迎すべき動きである。一方で、デマや人権侵害の懸念から SNS を規制しようとする動きがあるが、利用者が情報を取捨選択する力を養うことは主権者教育にも繋がる。SNS 規制によって政治への関心が遠ざかることを防ぐため、慎重な対応が求められる。

都城市議会は、これらの取り組みを通じて、地方議会全体の課題解決に貢献しつつ、市民から信頼される議会運営を目指す。

都城市議会議長 様

提出日 令和7年 9月12日

研 修 報 告 書

進政会 赤塚 隆志

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名： 進政会

長友 潤治・黒木 優一・中田 悟・赤塚 隆志

2. 研修先・テーマ及び日時

令和7年8月27日（水）～ 28日（木） 9：00～16：30

北海道札幌市 札幌文化芸術劇場 hitaru

第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」

3. 研修の内容

8月27日（水）10：00～16：30

基調講演：伊吹文明氏（元衆議院議長）「主権を預かる誇りと責任」

ア 戦後の GHQ による統治や現行憲法の背景を踏まえ、自治体の二元代表制の難しさについて説明。議会と首長（市長）間の調整は法律に委ねられており、憲法には明確な記載がない点を指摘。

イ その中で、住民、長、議会の意志調整が円滑でないケースがある事例に触れ、将来的な憲法改正に際して地方自治の課題を議論の俎上に上げる重要性を訴えた。

ウ 最後に、自治体議員が住民福祉や議会制民主主義に貢献する重責を担い続けることへの期待を述べた

パネルディスカッション：「多様な人材の参画促進」の観点からなり手不足を考える

ア 小規模市では次の選挙で3分の1が無投票になる懸念。対策として、議員活動の“見える化”と情報発信強化が重要とされた。

イ 若者や女性、会社員などの議員参画を促すために、報酬や厚生年金加入など処遇改善の必要性を強調。また、ICT 活用により育児・介護中でも活動できる環境整備が求められた。

ウ 各地事例として

・岡谷市（長野県）：全国で唯一の定数割れとなったが、議会情報のオープン

化、市民参加イベント、意見交換を通じて改善に取り組んだ

・白山市（石川県）：「MGK（みんなでギカイを考えるキカイ）」という市民交流会を開催。議会の見える化や SNS 活用により若年層の立候補が増加した効果が報告された

・鹿児島県南さつま市：女性議員の参画を増やす具体的取り組みを実施し、成果を上げた

8月28日（木）9：00～11：00

課題討議（2日目）：「なり手不足問題の取組報告」

コーディネーターより、「月額21万円・福利厚生なし・昇給なし・退職金なし」という架空の求人広告例が提示され、現状の厳しい労働条件が参加者の共感を呼んだ。

各議会の具体的取組報告では、対話重視の活動、市民シンポジウムの開催などが紹介され、議員の「落選リスク」を超えて活動を続ける姿勢も共有された

4. 視察の成果及び市政への反映等

「議員のなり手不足」への対応

ア 本市の現状と課題

都城市議会でも若手・女性議員は少数派であり、次世代の担い手確保は大きな課題である。今後は無投票当選や候補者不足のリスクが顕在している。

イ 反映可能な取り組み

現在も実施しているが、議会活動の「見える化」：議会中継の周知、市民との意見交換会を更に増やす。

若年層・子育て世代への配慮：夜間やオンラインでの議会報告会の実施。

議員報酬や活動環境の検討：ICT 活用、会議時間の柔軟化、処遇改善の議論。

ウ 市民参加の拡大 「全国事例」

・長野県岡谷市：定数割れ克服のために議会のオープン化、市民イベントで議会に親しみを持たせた。

・石川県白山市：「MGK（みんなで議会を考える機会）」で市民と議会が直接交流。

エ 都城市での応用

「みんなで都城を考える会」のような仕組みを設け、市民参加型の議会イベントを開催。若者や移住者が意見を出しやすい「ワークショップ形式」の場をつくる。

「多様な人材の参画促進」

全国での議論

女性・若者・会社員の議員参画を増やすためには、時間や報酬面での改善が不可欠。

オ 都城市での実現策

議員インターン制度の創設（大学生や社会人インターンの受け入れ）。

議会や政策形成に市民が参加できる「政策提案型公募制度」の検討。

子育て・介護世代でも活動できるように託児支援やリモート会議導入を進める。

議会と市政の信頼強化

※ 伊吹文明氏の指摘

「議会と首長の関係は憲法上曖昧であり、住民・首長・議会の三者の調整が課題」
との発言。

カ 都城市での意義

市長と議会の「政策協定」的な対話を定期化し、対立ではなく協働の姿勢を見せる。市民に「議会はチェック機関だけでなく政策提案機関」という理解を広める。

まとめ：都城市への反映ポイント

1. 議会活動の発信強化（情報公開・SNS・市民参加イベント）
2. 多様な層の参画促進（若者・女性・移住者・会社員）
3. 活動環境の改善（ICT・報酬・勤務条件の見直し）
4. 市長と議会の協働（政策形成における共同プロセス）

これらを進めることで、都城市は「開かれた議会」「市民と共に考える議会」として存在感を高め、移住・定住促進や地域活性化にもつながる可能性が高い。

今回の研修の内容については、現在のところ、議員のなり手不足が喫緊の課題として検討されている状況にはないものの、市民の代表・代弁者であることが地方議員に負託された職責であることを鑑みると、今後、多様な人材の確保、議員の待遇や環境改善についての取り組みを検討するのに寄与するものであった。今回の研修が「市民の幸福度向上」に向けた取り組みにしっかり反映できるよう、努力していきたい。

以 上

会派 進政会 研修視察報告書

報告者 黒木 優一

【調査日】 2025年8月27日（水）28日（木）

【研修場所】 札幌市芸術文化劇場

【研修項目】 第20回全国市議会議長会研究フォーラム

I、研修概要

① 主催者 全国市議会議長会

② 参加者 約2,450名

③ 研修次第

(1) 基調講演

「主権を預かる誇りと責任」

伊吹 文明 氏

(2) パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議員のなり手不足問題を考える」

(3) 課題討議

「地方議員のなり手不足問題の取り組み報告」

(4) 内容

基調講演

伊吹氏は、議員が市民の主権を代行する立場にあることから、その職務には極めて重い責任、倫理観、説明責任が伴うことを強調した。特に議員と行政（市長など）との関係において、「予算を安易に通す」「調整だけで済ませる」ような態度を戒め、議員本来の統制機能を果たすべきであると訴えた。伊吹氏は、議員が市民の主権を代行する立場にあることから、その職務には極めて重い責任、倫理観、説明責任が伴うことを強調した。特に議員と行政（市長など）との関係において、「予算を安易に通す」「調整だけで済ませる」ような態度を戒め、議員本来の統制機能を果たすべきであると訴えた。

パネルディスカッション

議員報酬制度の見直し： 現在の報酬水準の低さに加え、手当・福利厚生を含めた総合的な待遇改善が急務。議員の重い責任に見合った対価の確保が必要。

情報発信の強化： 住民にとって議会・議員の仕事内容が見えにくい現状を改善し、議員活動の現実と意義を効果的に伝える発信力の向上が不可欠。

多様な人材の参画促進： 若者や女性など多様な人材が議員になりやすい環境づくりとして、夜間開催などの時間・場所・形式の工夫や、育児・仕事との両立を考慮した制度設計が求められる。

地域事情に応じた制度設計： 自治体の規模や財政力によって事情が異なるため、議員活動の専門化・非常勤化について画一的でない、地域実情に即した柔軟な制度が望ましい。

課題討議

岡谷市（長野県）：定数割れという危機的状況を経験し、議会情報のオープン化、住民参加の促進、議会機能の強化により克服を図る。継続的な取り組みにより少しずつ成果が現れている。

南さつま市（鹿児島県）：「女性議員を100人にする会」を設立し、地域レベルで女性の政治参画拡大を実践。障壁は多いが、明確な目標設定と継続的取り組みの重要性を実証。

白山市（石川県）：「未来へつなぐ議員の在り方検証委員会」を設置し、議員定数・報酬・政務活動費等の制度見直しを住民対話を交えて検討。住民との協働による議会改革の取り組み。

Ⅱ、研修の感想と成果

本フォーラムにより、地方議会議員のなり手不足は単一要因ではなく、待遇、認知度、制度設計、社会環境等が複合的に絡み合った構造的問題であることだと感じた。解決には各自治体の実情に応じた多角的アプローチが必要であり、継続的な取り組みと関係者間の連携が不可欠だと思う。

伊吹氏が強調した「主権を預かる誇りと責任」という理念を基軸に、議会の統制機能強化と説明責任の向上を図りつつ、実効性のある制度改革と環境整備を同時並行で進めることが、持続可能な地方自治の実現に向けた鍵になると思われた。

各地の先進事例に共通するのは、危機感の共有と住民との対話を重視する姿勢であり、小さな取り組みから始めて継続することの重要性が示された。今後は本フォーラムで得られた知見を各地域で実践に移し、その成果を継続的に検証・共有していくことが求められると思った。

本市では、これまで多くのことに取り組んでおり、これからも市民の思いを真摯に受け止めて更に福祉の向上に努めなくてはならない。



研修報告

会派 進政会 中田 悟

第 20 回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

期 間： 令和 7 年 8 月 27 日（水）～28 日（木）

場 所： 札幌文化芸術劇場

テ ー マ： 地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて

8 月 27 日（水）

13:00 開会式

13:20 基調講演「主権を預かる誇りと責任」 伊吹文明（元衆議
院議長）

14:40 パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問
題を考える」

コーディネーター：辻 陽（近畿大学法学部教授）

パネリスト：牧原 出（東京大学教授）、

白石洋一（読売新聞東京本社政治部次長）、

山下節子（山口県宇部市議会議長）、

長内直也（北海道札幌市議会議長）

16:40 次期開催地挨拶

8月28日（木）

9:00 課題討議「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター：牧瀬 稔（関東学院大学法学部地域創生学科教授）

パネリスト：今井康善（長野県岡谷市議会前議長）、

平神純子（鹿児島県南さつま市議会議員）、

中野 進（石川県白山市議会議長）

11:00 閉会式

◎基調講演 伊吹文明（元衆議院議長）

- ・ 議員は、主権を預かる者として、誇りと責任を持つことが肝要である。
- ・ また議員は、市の主権を預かっている重い立場にある。
- ・ 市長と議員との間では、議員は強い権限というものは持っていない。
- ・ どんな制度にも長所と短所があり、そこを見極める能力が必要である。
- ・ 議員のなり手不足問題の一つには、議員を辞めた後の保障がないので、議員をやりたがらない。
- ・ 議員を辞めた後、生活保護を受けている者もいる。

- ・ 地方議員の方々は、地域から尊敬される議員になってください。
- ・ また、選ばれた者として義務をもって活動してください。

◎パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

はじめにコーディネーターの辻氏より、テーマの解説として、地方議会・議員に対する無関心、若しくは不信が広がり、地方議員選挙において投票率が低下し、無投票当選者や定員割れが顕著に増加している状況が述べられた。このなり手不足に関して、議員の多様性や住民代表性の確保、議員定数・議員報酬のあり方、地方議会の役割や議員の職務等の明確化の3つの論点が挙げられ、地方議会の概況、令和5年地方自治法改正の内容などから、この問題の考えるポイントが示された。

パネリストからの発言では、牧原氏からは「地方制度調査会」「持続可能な地方行財政のあり方に関する研究会」での議論を踏まえ、キーワードとして人口減への対処と、技術革新へのリテラシーが述べられ、オンライン議会・自治体DXにも言及された。

白石氏は、読売新聞の全国世論調査から有権者の意識を探るなか、報酬額や介護育児との両立についてなどの課題解決の必要性が述べられた。

山下議長からは、議会にも政策提言能力を備えることが必要で、優秀な人材が議員となってくれるよう環境整備が必要との指摘があり、そのため議会の役割や議員の仕事への関心を高めること、多様な人材が立候補しやすい環境づくりが重要として、そのための取組の紹介などがあった。

長内議長からは、なり手不足対策として主権者教育に取り組んでおり、小中学生の議場見学や市議会キッズページの開設、区役所との連携などが紹介された。

◎課題に対する討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーターの牧瀬氏より、若者や女性、会社員など多様な人材の地方議会への参画を促し、議会を活性化することが喫緊との課題提起があった。そして、なり手不足問題への具体的取組内容、取組の成果と課題、解決に向けた提言を討議したいと論点が提示された。

今井議長から岡谷市の取組として、議会報告会の開催、採決態度の公表、委員会オンライン開催のための条例改正などのこれまでの議会改革の取組状況が報告された。さらに、現在取り組んでいる議会情報のオープン化、住民参画、議会機能の強化と合わせて、なり手不足対策への具体的取組として「議員のなり手不足に向き合うシ

ンポジウム」の開催、市民との対話集会の実施状況が紹介された。

平神議員からは、女性議員増に向けた活動状況や思いが述べられた。

中野議長は、令和３年の選挙でなり手不足が顕在化し、改選後に「未来につなぐ議員の在り方検証委員会」の設置、議員討論会の開催、「みんなでギカイを考えるキカイ」実行委員会を設置したとの紹介があった。検証委員会や討論会では具体的な検証・検討内容を設定し議論を重ねてきた報告があり、シンポジウムにおいては開催前と開催後にアンケート調査を実施して課題を明らかとした様子が伺えた。

◎所感

無投票当選者が増加しているデータなどから、地方議員のなり手不足の課題が顕在化していることを痛感した。なり手不足の状況は地域によって差があるものの、その根底には議会・議員への無関心や不信があるとの指摘は重要であり、具体的な取り組みをしている議会ではその点を重視した対策を実施していることがわかった。議会改革の取組で市民に開かれた議会を目指すことと、なり手不足対策は通じるところも多く、引き続き議会改革の取組をより広い観点で進めていく必要があると感じた。

